



テムの行程（と結果の出力）の評価、成果評価そして影響評価を含むべきである。

\* サーベイランスと対応システムの監視と評価に用いる指標：

サーベイランスと対応システムの構成要素の監視と評価は、くり返し、直接、間接に、時間を超えて測定される指標を用いる事によって達成できる。一般に2つのタイプの指標（監視指標と評価指標）が使われる。監視指標はサーベイランス活動の実行追跡とサーベイランスシステムの経時的な変化の検出に用いられる。評価指標は、その過程、出力、成果および影響の査定により、設定目標の見地からシステムの有効性を査定するために用いられる。

WHO は論理的な枠組みモデルと伝染病のサーベイランスと対応システムの監視のための以下のようなツールキットを推奨した。

入力指標は、サーベイランスと対応活動の立ち上げと実行に必要なとされる資源を言う。これには訓練された人員、財源、基準とガイドライン、通信設備、適切な形式その他を含む。

行程指標は、訓練、指揮、ガイドラインの立案の中心となるサーベイランス機能の開発のような活動を監視し追跡するのに使われる。

出力指標は、行われた活動の結果（サーベイランスデータの解析と報告、フィードバック、サーベイランスと対応に訓練されたスタッフの割合、計画通りに指揮が行われたかどうか）の測定に使われる。

成果指標は、サーベイランス目標が達成されている程度を測定するのに使われ、サーベイランスシステムの質、流行値の対応の適切さとシステムの有用性を含む。

影響の指標は、サーベイランスと対応システムで達成されつつある最終的な目標（たとえば、流行しやすい疾病の死亡率の減少、注目している伝染病の疾病率のパターンやスタッフおよび一般住民における動向の変化）の課程を評価するのに使われる。

\* サーベイランスと対応システムの監視と評価のステップ：

サーベイランスと対応システムの監視と評価を行うに際して、次のようなステップが推奨される。

- A) 監視と評価活動の計画
- B) 監視と評価の準備
- C) 監視と評価の実行
- D) 監視と評価からの勧告の追跡

\* 結論：

監視と評価は、伝染病のサーベイランスと対応システムの重要な構成要素であり、系統的に実行される必要がある。WHO のツールキットは国民級の監視と評価システムの開発や実行に際しての手引きとなるであろう。

< HIV ワクチンの臨床試験には幅広い登録者が必要 >

2004年8月26日-28日にローザンヌ（スイス）での HIV ワクチン試験の協議に参加した国際的な専門家グループによれば、HIV ワクチンの臨床試験にはさらに多数の女性と若年者の参加が必要である。HIV ワクチン臨床試験からの女性および青年の頻繁な脱落や低い登録数からの不公平を改める措置が確認された。

研究は、女性が HIV に暴露されたとき、少なくとも男性の2倍は HIV に感染しやすいことを示している。15-24歳の少女と若い女性が、途上国において HIV/AIDS を有する若年者の62%を占めている。女性と少女は、生物学的、社会的経済的理由のため、特に HIV 感染に弱い。若年者と若い成人は HIV の危険性が高く、途上国の新しい HIV 感染の約半分が15-24歳である。そのような疫学的現実にもかかわらず、女性と若年者、特に少女は、男性と比較して HIV ワクチンの臨床試験に最小の参加しかしていない。

HIV ワクチン臨床試験への女性と若年者の不参加の理由は多々あり、権限、自由な意志決定や教育不足、社会隔離、差別、妊娠と胎児に対するワクチン候補の潜在的な影響、ハイリスクな行動に関する汚名、試験の登録基準、秘密性とインフォームド・コンセントに関する問題などを含んでいる。臨床試験への未成年者の参加は親か保護者の同意が必要であろうし、青年は HIV ワクチン候補を受け取ることが健康に対して意味する事を十分に理解しなければならない。

専門家たちは、HIV ワクチンは混り合ったヒトの集団（特にワクチンを必要とする人々）でテストする必要があるため、これらの困難は克服でき、また克服すべきであることを認めている。いくつかの感染症ワクチンは、性別、年齢および人種（民族）により異なる効能を示した。

30以上の有望な新しい HIV ワクチン候補が、現在ヒトによる臨床試験（大多数がこの4年間にはじまった）でテストされている。2000年以来、小規模なヒトによる臨床試験における AIDS ワクチン候補の数は倍になった。

安全かつ有効で手頃な HIV ワクチンは AIDS の感染（毎年500万人の大人と子供を感染させ、300万人を死亡させ続けている）に対する強力な武器になるであろう。国際的な HIV ワクチンの研究使命は、性別、年齢、社会経済的な立場、人種、民族的背景あるいは国に関係なくすべての人に認められ、受け入れられ、利用しやすく入手可能で、あらゆる面で効果的な HIV ワクチンを開発することである。

（前川昌之、矢田真美子、中園直樹）